



令和4年度

多北高 FRH 通信 第03号

令和4年8月9日(火)
多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

Exploration Day with Researchers I (EDR I)

7月5日(水)に行われた高大連携講座です。名古屋工業大学、愛知県立大学、名古屋市立大学の、合わせて11人の先生方の研究室と1年生の各教室をオンラインで結び、研究の紹介や講義をしていただきました。1年生がこれから迎える文理選択や大学で学ぶ学問や職業など、自分の将来のことと関連付けて学び、考える、大変良い時間でした。

<講師の先生方>

NO.	氏名	大学	学部・学科	
1	杉本 英樹先生	名古屋工業大学	工学部	生命・応用化学科
2	米谷 昭彦先生			物理工学科
3	松盛 裕明先生			電気・機械工学科
4	船瀬 新生先生			情報工学科
5	青山 峰芳先生	名古屋市立大学	薬学部	
6	河合 篤男先生		経済学部	
7	曾我 幸代先生		人文社会学部	
8	影山 友章先生		芸術工学部	
9	箕浦 哲嗣先生	愛知県立大学	看護学部	看護学科
10	谷口 智子先生		外国語学部	スペイン語圏専攻
11	上川 通夫先生		日本文化学部	歴史文化学科

<生徒の感想>

★生命・応用化学科

最近脱プラスチックといわれていて、プラスチック製品を作るのがいけないのだと思っていたけれど、プラスチックのごみを出すことが環境に悪いのだと知ったので、自分でも捨てないようにしようとしてより一層思ったし、生分解性プラスチックやバイオマス資源の使用が増えるといいなと思いました。

★物理工学科

今は物理の基礎の部分を勉強していて、ん、なんだ?と思うことがあるけれど、新しいことを知ったり考えたりすることはやはり楽しいなと思った。今まで見たことない問題を解いた時も、答えは導き出せなかったけれど、考えてそれを友達と共有することは楽しかった。

★電気・機械工学科

愛知県は車で有名だから、地元の有名な企業と共同で研究をしているらしいので、とても面白そうだなと思った。今日の話聞いた段階では、機械分野の方が自分に向いていて、楽しそうだなと思った。

★情報工学科

今まで情報工学と聞くと、プログラミングを思い浮かべていた。しかしそれは間違いで、ただのツールに過ぎず、そのツールを使って何を成し遂げるかを考えるのが情報工学。だと分かった。普段の身近なものでも、どうやったら作れるか真剣に考え、将来必要とされるような人材に成長していきたいと思った。

★薬学部

私が思っていた薬学のイメージとは違いましたが、私はより興味を持ちました。医療にかかわる仕事だけでなく、「どの仕事も人の役に立つ」という言葉に共感しました。正直、私は理系か文系かすら迷っているし、学力的にも大学に行けるかも不安ですが、一つ興味を持ったこととして、これから考えていきたいです。

★経済学部

経済学に対する最初のイメージは、お金の動き方や景気など、とにかくお金のことなんだろうなと思ってたけれど、話を聞いて、社内のみんなで会社を作っていくためにどうするかという考えも学ぶと知り、興味が沸いた。イノベーションを起こしやすい会社作りの仕方などを聞いて、少しこのことについて学んでみたいと思った。

★人文社会学部

最初内容が自分の想像していたものと違ったため少し困惑したが、SDGsに通じた教育目標、ESDという自然や他者との関わりを通じて地球社会及び人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの「持続可能な生き方/ありかた」を捉えなおす教育について知り、驚きを感じた。

★芸術工学部

プロダクションデザインにも様々な目的があり、便利益だけを追求することだけでなく、不利益にも考慮してデザインする事が大切だとわかりました。環境問題改善につながるデザインもあるのだと、わかりました。

★看護学科

私はずっと看護師は、医者をサポートを行う人だと思っていました。でも医者の助手ではなく、自分から進んで動き患者のためになることをすると、わかりました。看護師になるのには多くの苦勞が必要で、人のために必死に仕事をする看護師はすごくカッコいいなと、改めて思いました。

★スペイン語圏専攻

英語を使いこなすのがゴールではなく、外国語を使って何をしたいのか、何を学びたいのかが最も大事である事がわかりました。今のうちから、海外のニュースを見るなど言語に触れていきたいです。

★歴史文化学科

私は日本の歴史のことがとても好きで興味があったが、授業でよく出てくる有名な人以外で庶民の中にも、後世にこの事実を伝えたいという思いから、文章にして残している人がいることを改めて知った。「歴史を学ぶ理由は何か」ということは、これからも考えていきたい。

<活動の様子>



講義のようす①



講義のようす②



生徒間での話し合い



先生に質問する生徒も